目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　始　初代会長）

第65号　2014年12月

発行人：吉田　博行　編集長：地田　博昌　事務局長：安藤　孝

事務局：〒152-0002　目黒区目黒本町6-4-16　Tel 03-3716-7477

2015年　新年会開催のご案内

2015年新年会を、1月18日（日）目黒雅叙園にて、下記の通り開催致します。

毎年恒例の講演は、講師に早稲田大学応援部監督竹沢久喜氏（昭和57年　商学部卒）をお招きします。母校応援部は、リーダー、吹奏楽団、チアリーダーズ計160名の陣容。「早稲田大学応援部の裏話」と題して数々の名勝負を演出する工夫と熱き早稲田魂のお話となる予定です。校歌斉唱では、華麗なリードをお願い出来るかもしれません。

本年設立15年の佳節を迎えた目黒稲門会の新たな歴史を寿ぐ新年会を盛大に開催したいと存じます。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

年の初めの新年会。気分も新たに集い合い、「都の西北」談義で大いに盛り上がりましょう。初めてのご参加の方、ご同伴も大歓迎です。奮ってご参加下さいますよう重ねてご案内申し上げます。

記

1．日　時：2015年1月18日（日）
　　16時開会（受付開始　15時30分）
2．会　場：目黒雅叙園（2階　華しずかの間）
　　目黒区下目黒1-8-1
　　電話　03-3491-4111
　　JR目黒駅西口、東急目黒線、地下鉄南北線、三田線目黒駅から行人坂を下って3分（権之助坂を下って5分）
　　東急バス権之助坂・日の出学園下車3分
3．講　演：16時～17時
　　講師　早稲田大学応援部監督
　　竹沢久喜氏
　　演題　「早稲田大学応援部の裏話」
4．懇親会：17時～19時
5．会　費：会員10,000円、ご家族5,000円
　　当日会場受付にてお支払い下さい。
6．同封の返信用はがきを、12月25日（木）までにご返送下さい。　　（田島　記）

講師プロフィール

竹沢久喜氏

1957年　東京都生まれ　満57歳
　　早稲田実業高等学校時代より応援部に所属し、3年時に硬式野球部を15年ぶりに夏の甲子園へ送り込む。
1978年　早稲田大学商学部入学、再び応援部の門をたたく。4年時に代表委員主将として、早稲田大学のピンチを支える。
1982年　日商岩井株式会社（現、双日株式会社）入社
2005年　父の仕事を継承、（株）ステラコート代表取締役
2013年　早稲田大学応援部助監督就任
2014年　早稲田大学応援部監督就任

早稲田大学応援部

リーダー、吹奏楽団、チアリーダーズの3パートから形成され総勢160人。

大学行事・式典はもちろん、競技スポーツセンター43部の応援、また全国各地の校友会、稲門会の支援活動等に年中無休で活動中。

各部会からの案内・報告

ウォーキング部会

だんだんと寒さが気になる季節が近づいてきましたが、体調に気をつけて過ごされていると思います。

実施報告と今後の予定をお知らせいたします。

皆様お誘いあわせの上ご参加ください。

初参加、女性の方大歓迎です。

実施報告

9月例会　9月2日（火）
小金井神社から滄浪泉園へ
参加　12名

10月例会　10月21日（火）
三浦半島南岸の磯歩きを楽しむ
参加　14名

10月特別企画　10月31日（金）　渡良瀬遊水池
参加　10名

11月例会　11月18日（火）
江戸の六阿弥陀道を歩く
参加　11名

今後の予定

12月例会　殿様の別荘地池田山公園から白金自然教育園へ
日　時　12月16日（火）　午後1時
集合場所　ＪＲ五反田駅改札外

1月例会　港区七福神巡り
日　時　1月6日（火）　午後1時
集合場所　地下鉄南北線麻布十番駅
5番出口

2月例会　鎌倉三十三観音めぐり　第1回
日　時　2月17日（火）　午後1時
集合場所　ＪＲ鎌倉駅改札外

3月例会　府中、国分寺を歩く
日　時　3月17日（火）　午後1時
集合場所　京王線府中駅改札外

以上小雨決行です。参加される方は下記まで連絡ください。　牧野連絡先　携帯

ウォーキング部会長　牧野武夫

早稲田スポーツ観戦部会

― 六大学野球秋の早明1回戦応援観戦会 ―

9月27日（土）銀杏も色づく神宮球場で行なわれた早明1回戦を14名の会員と応援観戦に行きました。春に逃したリーグ優勝をなんとしても勝ち取りたい我が早稲田でしたが、エース有原を欠き守備の乱れも何度か見られて、3対8で良い所なく敗戦してしまいました。

試合終了後青山の居酒屋で懇親会を開き、最近の早稲田スポーツの低迷を憂いながら少し辛めの酒を酌み交わしました

早稲田スポーツ観戦部会長　狩野俊夫

俳句部会

第65回「萩句会報告」

日時　2014年10月20日（月）　14時～17時

（順不同）

保井寶正　秋の蝉読経和して侘びしかり
川井素山　下駄の音出で湯の里の初紅葉
青木英林　日が暮れて棚田の里の濁り酒
後藤克彦　蝉の穴園児覗きて夏終る
佐久間喬　月蝕に我が身写すやそぞろ寒
永井正孝　車窓より速度緩める曼珠沙華
吉田啓悟　躑り口音の入りくる松手入
丸山酔宵子　火の酒に塩舐め齧る檸檬かな
佐久間たか子　蒼穹をすかして見せる松手入れ
長島清山　遠い空祭ばやしや風たちぬ
米田文彦　向きあひて言葉少なしレモンティー
菊地崇之　松手入門前清めお向かいさん
佐伯武雄　元気だと問わず語りの墓参り
大山竜海　母老いてすべておぼろに秋暮るる
山本草風　古城址の景をつくらん松手入
金森純女　縁側の茶を取りかへる松手入

10月より中原道夫先生を迎えて再出発しました。

俳句部会長　佐久間喬

食べ歩き部会

食べ歩き部会では恒例の新そば会を９月25日(木)と、10月３日（金）に実施しました。会場は堀井良造会員のお店、寛政元年（1789年）創業の麻布十番の「更科堀井」さんです。堀井さんのご説明によれば、今年の新そばは北海道・弟子屈町の産で、とても良い新そばが手に入ったとのことでした。

堀井さん差し入れのビールで乾杯し、前菜のあとに吸い物代わりに供されたのは岩手県産の松茸そばでした。香りも味も良く、贅沢な逸品を堪能しました。そば寿司、そばがきと「そば尽くし」のメニューが続きます。小海老と三つ葉のかき揚げ天ぷらともりそば、締めは季節の菊切りそばです。おそばはハーフサイズですので、スイスイとお腹に入ります。おそばのお代わり自由とのことで、若手会員ではフルサイズのおそばをお代わりする人もいました。

デザートは温かいお汁粉、冷たいお汁粉、くず切りからの選択で、初秋のおいしい一夜を満喫しました。

参加者は９月25日が16名、10月３日が15名でした。

食べ歩き部会長　　猪名川一雄

麻雀部会

1．10月25日（土）、３区親善大会は渋谷　スリーハンドレッドにて12時30分開始、目黒、世田谷、それぞれ８人、参加16名の大会となりました。優勝、準優勝、３位とも世田谷（飯田氏・中村氏・橋本氏）で、和気藹々17時に終了しました。

2．12月15日（月）目黒定例会が武蔵小山　サンにて開催されます。奮ってご参加下さい。引き続き忘年会を開催します。

麻雀部会長　　鵜野洋治

囲碁部会

例会は８月・９月と休会が２か月続きました。

楽しみにしていた10月は前夜からの台風が影響し出席者は５名でやや寂しい会になりました。

９月27日（土）には世田谷稲門会の呼びかけで杉並、大田、目黒の囲碁部会合同の囲碁会が用賀で行われました。30名ほどの参加があり大いに盛り上がりました。

翌日の28日（日）には稲穂囲碁大会が初台で開かれ60名ほどの愛好者が集まりました。目黒からは保井さん、大久保さん、私の３名が参加しました。
他流試合も楽しいものです。

今後の例会スケジュール

12月８日（月）13時　　終了後忘年会
１月19日（月）13時

囲碁部会長　　永田耕治

美術・歴史鑑賞部会

第48回は９月10日（水）国立新美術館『オルセー美術館印象派の誕生―描くことの自由』展に参加者15名。印象派を代表するルノワール、マネ、モネ、ドガ、セザンヌ等の作品を鑑賞しました。

特に、エドゥアール・マネ「笛を吹く少年」やジャン＝フランソワ・ミレー「晩鐘」、クロード・モネ「かささぎ」等の教科書によく出ている名画の前は鑑賞時間が長い人が沢山いました。

名画に感動した後に、ランチを館内の３階にある三ツ星レストランで。

第49回は10月16日（木）『ボストン美術館浮世絵名品展　北斎』を上野の森美術館で鑑賞しました。

今回は葛飾北斎の作品140点が展示され「冨嶽三十六景」「金沢八景」「諸国瀧廻り」「百物語お岩さん」等の魅力作品を堪能できました。

鑑賞後、参加者16名で上野公園内にある歴史ある有名な懐石料理店「韻松亭」で昼食を。"芸術の秋"を楽しんだ一日でした。

美術・歴史鑑賞部会長　　後藤克彦

会員の広場

ロンドン塔にて

大杉邦雄（昭和40年　法）

「かのTurnerの晩年の作品を見よ。彼が画きし絵は燦爛として絵具箱を覆したる海の如しー。」文豪夏目漱石が評論『文学論』で賛辞を贈った英国風景画の巨匠、ターナーの展覧会が昨年暮、東京都美術館で開催されたが、もっとたくさんターナーの絵を観たいということで、今年4月初め、絵の教室の7人の仲間とロンドンに出掛けた。漱石が留学時代に何回か足を運んだという、ターナーコレクションで有名な「テート・ブリテン」とヨーロッパ絵画の傑作が展示されている「ナショナル・ギャラリー」等を観て、テムズ河畔、リーズ城、カンタベリー大聖堂、ドーバー海峡、ブライトン（マリーナでヨットを描く、下の写真）等でスケッチする8泊10日ののんびり旅であった。

両美術館とも過去に何回か行ったことがあるが、水彩画を習い始めて7年目になる今回の訪問は、以前とは違った視点から、作品を観ることができ、また新たな感動を覚えた。特にターナー（1775－1851）及び彼と同世代のトマス・ガーディン、ジョン・コンスタブルの鉛筆と水彩で描かれた作品は、大変参考になった。

今回7年ぶりにロンドン塔に立ち寄ることになったが、ここに来ると私はいつも夏目漱石（1867－1916）のことを思い出す。漱石は1900年9月8日横浜出港、10月28日ロンドン着。これより2年余りイギリスで留学生活を送った。

私が初めてロンドンを訪れたのが1980年，その後ベルギー勤務を経て、1990年以降、通算8年間ロンドンに駐在することになるが、この頃に読んだ漱石の『倫敦塔』の一節が今も強く印象に残っている。一部を引用する。「2年の留学中只1度倫敦塔を見学したことがある。行ったのは、着後間もないうちのことである。其頃は方角もよく分らんし、地理などは固より知らん。まるで御殿場の兎が急に日本橋の真中へ抛り出されたような心持であった。」

この訪問記を読みながら、私は、文豪夏目漱石ではなく単に1人の日本人留学生としての夏目金之助に親近感を覚えた。1884年に22歳の若さでベルリンに留学した森鴎外が「われヨーロッパの中央に立てり」と胸を張っているのに対し、1900年33歳でロンドン留学した漱石は「まるで御殿場の兎が急に日本橋の真中へ抛り出だされたような気持」と記している。自信にあふれた鴎外よりも、ロンドン生活に不安を抱いているごく普通の人間味あふれる夏目金之助に共感を覚えたのである。

2年余りの留学生活の間に、漱石は何回か下宿を変えたが、最後の下宿はテムズ川南岸のザ・チェイスという街であった。

漱石ゆかりのレンガ造りの家は現存しており、ここには、

NATSUME　SOSEKI（1867－1916）
JAPANESE　NOVELIST lived here 1901－1902

と漱石の下宿だったことが書かれたプレートが掲げられている。

漱石は『文学論』の自序の中で、次のように述べている。まず留学については気が進まなかったこと。「当時余は特に洋行の希望を抱かず、たれがこんなとこにきたかったか？」

ついで不満だったのは、政府が命じた研究課題が、語学研修で英文学研修でなかったことであった。

表面のあしらいのよさはともかく、今もしっかり残っている有色人種への軽視は当時は言わずもがなである。そのうえ、政府から支給される学費が少なかったため、書籍を買う費用を捻出するべく、食費さえも切り詰めた生活だった。この頃文部省から報告を求められた漱石は、学問の道がまだ開けていない苛立たしさから白紙の報告書を提出。おかしいと感じて様子を見に行った関係者は、暗い部屋に閉じこもり、悲観して泣いている漱石の姿を目にする。そのため「夏目狂せり」という電文が日本に送られ、漱石が神経を病んでいるとのうわさが広まった。

このザ・チェイスの下宿に立て籠もり『文学論』の準備に没頭することは、彼にとってロンドンにおける自分の精神を守る唯一の、いわば大いなる逃避であった。

漱石は帰国した後、1906年に『文学論』を世に出した。序文を抜粋する。

「ロンドンに住みたる2年は尤も不愉快の2年なり。余は英国紳士の間にあって狼の群れに伍する1匹のむく犬の如く、あはれなる生活を営めり。
自己の意志を以って（注:英国へ）行きたるにあらず、自己の意志を以てすれば、余は生涯英国の地に一歩も吾が足を踏み入ること無かるべし。」

私の趣味と生き方

佐伯武雄（昭和41年　理工）

私の趣味（仕事）と現在の生き方を述べて私の自己紹介としたい。

長いサラリーマン生活を約８年前にやめて、現在は複数のNPO団体組織に所属し、今までやって来たコンピュータ関係の延長線にある、コンサルタント事業を仕事仲間と一緒に実施しています。具体的な仕事は、①民間企業に対するシステム監査、②中堅企業経営者に対するITの利活用による経営改善支援、③情報化人材育成のための研修企画・実施です。有料および無料のサービスの両方があり、その作業負荷は週２～３日です。情報化社会の急速な進歩および環境変化に対応して行くために、新しい幅広い関連技術の理解が前提となりますが、自分なりの現状調査や理解・応用がとても楽しくて、また研修中における受講生との会話の中で、新しい気付きや自己の成長が感じられます。まさに仕事が趣味であり、生きがいになっていると思います。毎月研究テーマ４件を決めて、本を読んだり、各種セミナーやイベントに参加して得た内容を感想含めてまとめています。私の仕事に関して、視野を幅広くし、マンネリ防止に役立っています。

私に仕事以外の趣味があります。現在　当稲門会に入会して１年半、数多くのイベント（グルメ、美歴、マージャン、俳句会など）に参加すると共に、他団体組織における山登りの会、川柳会などに参加しており、色々な方々と情報交換しながら、リフレッシュしています。また孫を含めた家族との定期的な飲み会やイベント参加で円滑なコミュニケーションを維持しています。但し一般の親に比して、４人の孫たちと一緒に過ごす時間はとても少ないと思います。私がやはりリラックスして楽しめるのは、お客様に喜んでいただいた後の仕事仲間との反省会が何よりうれしいし、続けてきてよかったなと感じています。

経営者の支援における最近のトピックをご紹介しましょう。IT(情報技術)に関する最近のトピックは、クラウド、ビックデータ、モバイル、アジャイル開発ですが、皆さんお聞きになったことがあると思います。特に　ビックデータの活用は、現在行政が重視している「攻めのIT投資」に大きく貢献する。「攻めのIT投資」とは、従来の「守りのIT投資」であるIT化をコスト削減や生産性向上に目的としているのに比して、売上げの向上や新規サービス・製品の創造を目的としている成長戦略に期待されている。ある統計データ報告によると、ビックデータに関して、日本の中小企業の経営者の約43%が「よくわからないあるいは聞いたことがない」と回答しています。私どもの仕事は、経営者の方々の悩みや課題のひとつである、「今のままでよいのか？」「何か手を打たなければならないのか？」に対して、お客様の現状を簡単に調査分析することにより、お客様に合った解決策提案を分かりやすく説明して、お客様が検討・実施していただくようにご支援することです。

経営者の方々には色々なタイプの方がいらっしゃいますが、成功している経営者に共通点があります。それは、人のため世のために、新しいことに積極的に挑戦し続けると共に、周りの方とのつながりを大切にしていることです。私も経営者には程遠いですが、好きな仕事を楽しく続けながら、周りとのつながりを大事にして、少しでも人のために役立てればよいかなと思っています。

今一番心がけていることは、健康寿命を延ばすことです。厚生労働省では、“健康寿命”を「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義しています。全国統計データでは、男性の平均寿命80歳に対して、平均健康寿命が私の同年齢の71歳です。何となく生活しているのでは、あまり面白くないのです。テレビ調査で、世の男性に「生きがいは何か？」を聞くと、「何か役立ちたい」あるいは「いつまでも働きたい」でした。施設に入所している寝たきりで、子供の顔がわからなくなった認知症の母親を毎週面会するたびに思います。親が楽しく元気に生きているのが、子供にとって何より安心することなのだと。また、定期的に合う同窓会で、いつもと同じに「年金」「病気」「孫」の話しをするだけで終わるのはいやではないですか？　今仕事での先輩が、私以上に仕事をがんばっており、よい刺激を受けています。まわりでは、なぜそんなに仕事に集中できるのかと不思議に思っています。先輩の口癖は、いつも未達成の「余裕・ゆとりを持とう」です。人生色々、人の生き方は様々です。私は中高年に関わる殆どの病気を患っていますが、医者よりもらう多種類の薬を毎日飲むことで、健康を何とか維持しています。明日はどうなるか分かりませんが、人生の閑を楽しく活用して、新しいことに挑戦していきたいと思います。私は毎月ウォーキングしながら、お寺の教えの掲示板をメモしています。今月は【今に止まり不満を言わず、前に進んで満足を語る】。

まわりの方々のお陰で、今まで仕事を続けられることを感謝すると共に、今後共、周りの方とのつながりを大切にしたいと思います。現在、稲門会のイベント参加を通じて、色々な方々とのつながりが広がっています。これからもよろしくお願いします。

早稲田大学校歌の由来

猪名川一雄（昭和45年　政経）

10月9日（木）に校友会の支援講座「早稲田大学校歌の由来」を大隈講堂で吉田会長以下4名で聴講してきましたので、その内容をご報告します。講師は菊池哲栄氏（応援部稲門会会長　昭和43年　理工）です。

まず、創立者・大隈侯の生涯や思想についての詳しいお話がありました。それが校歌の歌詞に結びついているのをやがて知ることになります。

早稲田大学校歌は創立25周年を記念して、作詞・相馬御風、作曲・東儀鉄苗により明治40年（1907）に制定されました。東京六大学では最も古い校歌です（東大には校歌がない）。このとき大隈侯は70歳でしたが、相馬御風は大隈侯のことを相当研究したものと思われます。坪内逍遥などのアドバイスもあったことでしょう。

校歌一番の「都の西北　早稲田の森に」の都は皇居のことです。憲法発布、議会開設を決断した明治天皇への大隈侯の畏敬の念が込められています。また「われらが日ごろの抱負を知るや　進取の精神　学の独立」では、官吏養成のための官学とは異なり、私学が国家有為の人材を育成するためには学問の独立が不可欠であるとの建学の精神が表わされています。

校歌二番の「東西古今の文化のうしお　一つに渦巻く大島国の」は、日本の地理的位置は東西の文明が調和するところにあるという大隈侯の演説からとられています。

校歌三番の「あれ見よかしこの　常盤の森は　心のふるさと　われらが母校」で、「心のふるさと」により校歌は在校生のみならず、卒業生のものともなりました。「かしこ」は相馬御風の詞は「あしこ」でしたが、昭和47年に「かしこ」に改められました。

「わせだ　わせだ」のリフレインは当初の案では3回でしたが、坪内逍遥が7回に改めさせました。

校歌のメロディーはアメリカのエール大学の校歌「Old　Yale」を東儀鉄苗が参考にしたものとされています（エール大学の現在の校歌は変更されている）。百年以上歌い継がれている早稲田大学校歌は校歌にして応援歌、祝典歌にして行進歌の面を併せ持ちます。校歌は陸軍戸山学校軍楽隊によって最初に演奏されました。また、校歌制定時には校歌を歌いながら早稲田から皇居までの提灯行列がおこなわれました。

早稲田に学んだ私たちはこのような素晴らしい校歌を持っていることをあらためて誇りに思います。

校歌の早稲田の「杜」は「森」！

金井豊男（昭和41年　理工）

早稲田大学校歌は入学式から卒業式、スポーツイベントからはては校友の同窓会、結婚式でまで、早稲田人のふるさとを歌い上げるものとして機会あるごとに愛唱されています。

校歌歌詞は、正門左側にある早稲田大学の校歌碑（校歌制定90年と作詞者・相馬御風生誕115年に当たる平成9年建立）に刻み込まれており、早稲田大学の公式大学案内サイトにも掲載されています。

ところでこの早稲田大学建立精神を唱った校歌歌詞の文字が誤って使用されていることが散見されます。校歌1番第1節「早稲田の森に」、また3番第1節「常磐の森は」の部分が「杜」と誤って記載されている場合が多くあります。例えば、DVD校歌百年、神宮球場のスコアボード等で、また相馬御風記念館（糸魚川歴史民俗資料館）等では「杜」の文字が使われています。これらの詳細な経緯まではわかりませんが、歌詞に限定せずに考えれば、例えば大学の出版物などでは、早稲田の「杜」という文字が広く使われているところであり、思えば現在の早稲田には「森」と呼べるほどの緑はないため、（文化の森という意味では）「杜」の方がしっくりと来る感じもします。もともと使い始めた人も、「森」の字からくる違和感をなくすために「杜」の字を当てたかも知れません。

相馬御風は毛筆で歌詞を正規の書と併書の形で書いていますが併書では、「森」が「木＋成」（右図）になっています。早稲田大学高等学院および早稲田大学卒業アルバムでは、この「木＋成」が使われています。この「木＋成」は「森」の異体字で、草書の字体を「木に成に似た形」と捉えそれを「木に成」に変形させたと考えられます。「木が成って森になる」という意味を込めたかったのかも知れません。

校歌3番第1節の、「かしこ」は、当初「あしこ」でしたが、その後「かしこ」と記された歌詞が圧倒的に多くなり昭和47年に混乱を収拾するため大学理事会で「かしこ」に統一されました。

最後に、校歌を歌う際のクライマックスである、各番の第7節、8節はそれぞれ「わせだ」を4回、3回繰り返しますが、その歌詞表記はひらがなで「わせだ」が正式です。

私見ではありますが、早稲田の「森」、「かしこの」、常磐の「森」、校歌の掛け声としての「わせだ」は、正式に制定された校歌歌詞であり、文字表記は正しくなされるべきではないかと思うのです。

稲門祭に参加して

澁谷美香（平成22年　文）

早稲田祭は知っていたが、恥ずかしながら稲門祭というものを知らなかった。正直、早稲田祭もろくに関わったことのない私が、初めて稲門祭に参加した。

私の知らないところで、こんな楽しげなお祭りが毎年行われていたとは…。1日だけ、早大生に戻れたような、そんな日だった。

大隈庭園に着くと、おなじみの目黒稲門会の先輩方が、暖かな日差しの中お酒を酌み交わしていた。庭園でのイベントも大いに盛り上がっていたが、私はそんな中、大隈講堂で開催されていた大隈塾企画「ワセジョにみる不易流行」という講演を聴きに行った。

目黒稲門会からは、村田信之さんが大隈塾スタッフ、中西千可子さんが企画・司会進行、そして石川智子さんが登壇された。

様々な年代に早稲田を卒業された先輩方が舞台上にずらりと並び、それぞれの「ワセジョ」を語る。私もワセジョの一人として、母校が教えてくれたこと、そして今の自分は果たして人生に正直に生きているか？等々漠然と考えていた。

最後のテーマは、「早稲田を卒業して、そしてワセジョで良かったこと」。早稲田を卒業して良かったこと、私にはあっただろうか。ふと思い返す。

小学校から高校までエスカレーター式の女子校に通い、大学で突如として早稲田大学へ入学。なんでそのまま女子大へ行かなかったの？もったいない、と言われることも多々（主に男性のご意見）。こうして、学歴でインパクトを与えることには一役買ってくれたはず。華の女子大生よりも、私は逞しく生きるワセジョを選んだ。

この選択肢で、いつかよかったと思える日を楽しみにして。私はこれからも、ワセジョらしく、強く生きる。

ようこそ！部会活動へ

囲碁部会へのお誘い

囲碁部会長　　永田耕治

皆さん、囲碁というゲームにどんなイメージをお持ちですか？　難しそうなゲーム？　年寄りのゲーム？　暗いゲーム？　なにかネガティブな答えが返ってきそうですね。

囲碁は白石と黒石を交互において地面を取り合うゲーム、ルールは簡単なのですがすごく奥が深いんです。それだけに1度囲碁をおぼえたらこんな面白いゲームが世の中にあったのかと感動さえ覚えることがあります。

これからなにか趣味を持ちたいと思っておられる方、頭の刺激を必要とされている方、暇を持て余しておられる方、始めるのは今でしょ！

囲碁部会は毎月第1月曜日の13時から下目黒住区センターでひらかれています。出席者は12名くらいで落ち着いた雰囲気の中で楽しく対局ができます。

例会では7段の高段者から級位者まで幅広くおりますが、高段者は親切に指導碁も打ってくださり大変勉強にもなります。

又、毎月の定例会のほかにオール早稲田囲碁祭りや稲穂会囲碁大会、世田谷など他地区の囲碁部会との合同囲碁会などへの参加を通じて新しい碁の友人もできる機会を持っています。

部会としては今後さらに会員を増やしたいと思っていますので、目黒稲門会の会員で囲碁がお好きな方や、これから囲碁を始めたい方がいらっしゃったら是非ご参加ください。

会員の奥様方の中にも囲碁を他所で打っておられる方もいらっしゃるのではないでしょうか。是非囲碁部会にも出席くださるようご主人からおすすめいただければ有難いです。

今後ますます囲碁部会を拡大し、さらに楽しいイベントなどが出来るようになることを夢見ています。

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧いただき、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい。平成26年11月現在

部会名	部会長	連絡先 電話／Fax	参加人数	会費	活動概要
囲碁	永田　耕治	電／F	10数名	300円	毎月　1回（下目黒住区センター）
カラオケ	田畑　繁	電／F	10数名	3,000円 女性　2,000円	毎月　第2金曜　午後4～7時 （コート・ダジュール目黒駅西口店）
食べ歩き	猪名川一雄	携帯	15～20名	5,000円～	年5～6回　程度 「楽しい」がキーワードです
ゴルフ	大杉　邦雄	電／F	20～30名	20,000円程度	年2回春秋　目黒通りバスで送迎
ウォーキング	牧野　武夫	携帯 F	15～20名	その都度	シーズン中は毎月1回程度
麻雀	鵜野　洋治	電／F	10数名	3,000円	年6回　武蔵小山"サン"および 渋谷"スリーハンドレッド"
美術・歴史鑑賞	後藤　克彦	電／F	15～20名	その都度	年4～5回
旅行	井村　正陽	電／F	20～30名	その都度	年2回　春秋
若木会	中西　元樹	電 F	10名程度	その都度	年数回の食事会等の他、幅広い層の参加による「心の若木会」も数回開催
よん月会	安藤　孝	電／F	20～30名	4,000円	毎月　第4月曜　午後6～8時 （「やるき茶屋」都立大学店）
俳句	佐久間　喬	電／F	約20名	12,000円／半年	毎月　第2月曜　午後2～5時 下目黒住区センター
ボランティア	稲垣　博信	電／F	全員	その都度	各種ボランティア活動および 各種支援募金の実施
早稲田スポーツ観戦	狩野　俊夫	携帯	10数名	その都度	年5～6回 早稲田スポーツ好カードの観戦
広報編集委員会	地田　博昌	eメール　meguro-tomonkai@nifty.ne.jp URL　http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/			

新入会員

吉野　博明（昭和45年　法）
（世田谷区深沢在住）
趣味：ゴルフ　音楽鑑賞

加藤榮護相談役とスポーツジムで知り合い、「目黒稲門会はいいよ」とお誘いいただきました。

細谷　清（昭和49年　商）
（目黒区目黒本町在住）
趣味：近現代史研究　食べ歩き
　　利き酒

卒業後、プラント会社に勤務して台北、ロンドン、ジャカルタに駐在しました。現在は専門学校等で非常勤講師として国際取引を教えています。目黒には平成8年に移り住みました。

編集後記

稲門祭に参加するため久しぶりに大学に行った。

去年取り壊されていた政経学部が高層の素晴らしい校舎に姿を変えて聳え建っていた。目にするまでは、歴史を感じさせる如何にも大学らしい思い出の校舎が近代的なビルに建て替わることに残念さを感じていたが、1号館など昔の儘の建物と並び建って、新しい政経学部校舎の聳えている景色は、なかなか悪いものではないと思った。

大隈重信像の右手前方から政経学部と7号館の間の道を通して演劇博物館を見、右手に大隈講堂を望む景観が早稲田で一番と小生は思っていた。OBの薮野　健画伯にも同じ景色のスケッチがあったのを覚えている。

新校舎りん立で雰囲気が変わってはしまったが、これはたくさんの学生を受け入れるためには仕方のないこと。これから新しい景観として多くの早稲田マンの心に刻まれて行くことだろう。　（地田　記）